レッスン：PYR NO.12

テーマ：Lifeによって与えられる助けとしての諸法則

PYR No.12 KE04 No.1 15/10/03

私の姉妹・兄弟たち、

スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

 以前のレッスンでは2番目のサイクルにおけるそれらの助けについてたくさん述べてきました。それらのレッスンで述べたように、それらの助けは「人間のイデアの現れ」に対してLifeそれ自体から提供された法則以外の何ものでもありません。

　さて、現れというとき、それはその本質を完全に現わしている人間のイデアの現れのことを指しているのではありません。魂のセルフエピグノシスからの微細な部分である現れのことを指しています。影、シャドーとしての微細な部分、それが制限ある現れのなかに入り、それが現在のパーソナリティーなのです。ですから、それらの法則は現在のパーソナリティーとしてのその現れに提供されているのです。

　まず、勿論それらの法則は、この現れが制限ある現れのなかに入るのを助けます。しかし同じ法則が後には、現在のパーソナリティーが徐々に制限ある現れから出るのを助けるのです。

　さて、それらの助けの一つが四面ピラミッドです。四面ピラミッドは何を意味していますか？それは4つのエレメントを意味しています。4つのサイド全てがエレメントでしょうか？違います、3つの面だけがエレメントを意味し、4番目のエレメントは地のエレメントに触れているピラミッドの底面によって示されています。

　ピラミッドの4番目のサイド、それは純白のサイドですが、それは他の3つのエレメントが提供するものを吸収できるように助けています。その仕事とは現在のパーソナリティーが直接するのでしょうか？答えはノーです、なぜなら助けは各エレメントを司っているそれらのアークエンジェルによって提供されるからです。

　純白のサイドは、現在のパーソナリティーが他のアークエンジェルたちの仕事を吸収するのを助けてくれる、と言いますが、それはコーディネーターとして助けるという意味です。しかし、それはどのように行われるのでしょうか？勿論、それについてあなた方は将来徐々にそれを知ることになります。

　このサイドはそれ以外に何を意味するのでしょうか？このサイドでは元型としての人間のイデア・フォームがあると言いました；それは現在のパーソナリティーが自己実現に到達した時の身体です。なぜそれがそこにあるのか、そして現在のパーソナリティーに関してそれはどこにあるのか？それは私たちから遠く離れたところでしょうか？

　前に述べたように、現在のパーソナリティーは影を生み出すもののそのまた影です。それでは何が影を作るのでしょうか？それはLifeそれ自体です。それは私たちの内側にあるLifeのスパークです。そしてそのスパークは勿論人間のイデア・フォームという身体をまとっています。なぜなら、スパークは制限ある現れのなかには入ったことはないからです。

　私たちの努力とは実際、そのスパークに同化することです。4つのエレメントをマスターすることに向けた全ての努力とは、徐々にその影を小さくしていき、最終的にその影を作ったもののなかに同化することです。そして影が小さくなるということ、それは現在のパーソナリティーがLifeそれ自体をもっともっと現わす、ということです。Lifeそれ自体からより多くということは、影からどれだけ多くそのスパークのなかに、人間のイデア・フォームのなかに入るか、ということです。そしてそうすることで、**自動的に不定形の諸体は肉体と同じ形を得るようになるのです。**

Page2

 しかし、肉体と同一の2つの諸体を得るとき、それは現在のパーソナリティーが5番目のサイクルを提供される準備ができていることを意味します。

そして自動的にそのパーソナリティーは5つの真の感覚を後にして同調を使います。

そしてサイコノエティカル体は私たちが前に述べた美しい体、つまり人間のイデア・フォームに同化します。

　さて、なぜ4つのエレメントについてワークする必要があるのでしょうか？なぜなら私たちには肉体があり、制限ある現れのなかにいる間、これら物質界においては現在のパーソナリティーは肉体を持っているからです。そして私達は徐々にこの肉体をマスターする必要があるのです。それはつまり、プロセスにおいて肉体にいかなる害も与えないことを意味します。

　もう一つのシンボルまたは助け、または法則は五面ピラミッドであり、それは感覚を意味します。どの感覚ですか？真の感覚およびその影としての感覚です。影としての感覚は現在のパーソナリティーが制限ある現れのなかにいる間に意識的に使用しており、

真の感覚は潜在意識的に使用しています。そして努力とは、現在のパーソナリティーが徐々に真の感覚をより意識的に使うようになることです。

　これがいつ生じるかは別問題ですが；これは現在のパーソナリティーの成長の過程において達成されるでしょう。自己実現へのプロセスにおいて、現在のパーソナリティーがいつ自己実現に到達するかは述べませんでした。

　もう一つのシンボル、もう一つの法則は三面ピラミッドです。勿論これは非常に重要です。なぜなら、この法則は真のLifeの本質を意味しているからです。しかし、ある特定のサイクルにおいては、このシンボルは現在のパーソナリティーがLifeそれ自体をどのレベルまで現わすことができるかを示し、Lifeから全てを現わすということではありません。現在のパーソナリティーが特定のサイクルをマスターしたとき、Lifeの本質をあるレベルまで表現することができるようになります。そして勿論、それは現在のパーソナリティーが四面ピラミッド、そして五面ピラミッドをマスターすることに向けて提供されているものをマスターすることを意味します。

そして自動的にもう一つの法則、それはLifeからの能力を意味しますが、それが現在のパーソナリティーに与えられ、それが一面ピラミッド、つまり円錐です。

　それでは円錐は何を意味しているのでしょうか？それは形の境界から出ることができるLifeの能力を意味します。その結果**意識は空間の意味のなかに拡大します。**それがどれだけ達成されるかは三面ピラミッドによります。

　過去のレッスンを覚えているかもしれませんが、Lifeは実際に全体、創造界全体を抱くことができると言いました。Lifeが創造界の原因だからそれが可能なのです。そこではLifeにはいかなる形の限界もありません。

　Lifeのもう一つの能力は多様性（多重性）の能力です。しかしその能力はただ一つの理由のために表現されます：進化成長のプロセスにある他の同胞の人間達を助けるということです。探求者としての私たちに課せられている仕事は自己実現に到達することです、それによって成長のさなかにある兄弟・姉妹たちの痛みを軽減することができるようになるために。

　さて、これらすべての法則は人間が創造したものではありません。それらはそこにあり、そして私たちがそれを使用するのです。

　先に進むにつれて勿論それらの法則へのアプローチについてもっと多くの詳細を与えます。そしてもし必要なら、知識に関してもより多くが与えられるでしょう。

Q：それらのシンボルは人間が創造したものではなく、与えられたものだと言いましたね。しかし、それらはどこにも書かれていないので、パーソナリティーが表面にもたらしたのに違いありません。

Page3

K：そうです、

それらはパーソナリティーが二元性を使わずに、つまり思考を使用せずにもたらしたものです。全てのリアリティーは二元性を使用することなく内側から出てきます。

あなたが何かを書くときには、それはあなたが何かについて考えることを意味します。それが、レッスンに対して何も準備することがない理由です。なぜなら新しいものはマインドの潜在意識にあるものから来るのではないからです。それが違いです。

　さて、もしあなたが何かを書くときには（勿論それを書くのは初めての時ですが）、あなたはトランス状態に入り、現在のパーソナリティーは完全に背後に残され、肉体は何かを書く手段として使われます。しかし、これは勧められません；これは真剣な探求者に対するものではありません。

　有名な「ヨハネの黙示録」の絵では、福音書のヨハネが誰かに筆記させています。これはまったく別のことです。なぜなら、**彼は完全にあるステートにあり、何であれ口から出ることはいかなる思考もなしに内側から来ているからです。**彼は見ることができなかったからだ、と言う人もいるかもしれません。それは違います。彼は実際には、もし見たいと思えば別の目を使って見ることができたのです。勿論、彼のその放出は人間にとってはミステリーです。

Ｑ：永遠のアトムは死の現象によって退いてしまうのですか？

Ｋ：永遠のアトムはそのパーソナリティーから退くのではなく、肉体からのみ退きます。なぜなら目的に奉仕したからです。永遠のアトムは魂のセルフエピグノシスによって活性化されます。魂のセルフエピグノシスが実存の諸世界に入ると、私たちはそれを永遠のパーソナリティーと呼びます。それは魂と同じものです。

Ｑ：私が理解する限りでは不定形の諸体が形を帯びても、まだそれらは魂のセルフエピグノシスに同化するまでには至っていないのですね。

Ｋ：永遠のアトムは同化されません。なぜなら、それは再形成されないからです；その意味は現在のパーソナリティーの現れはLifeの本質を完全に表現するステートに到達していないからです。まだ魂に与える色を得ていません。

Q：その色には何が含まれているのですか？

K：色、それはその魂に与えられるものですが、その中には全ての体験、永遠のアトムによって活性化されたすべての現在のパーソナリティーがあります。

Q：その魂のバイブレーションは非常に精妙なのですね。

K：それらはスーパーサブスタンスの非常に精妙なバイブレーション、Lifeそれ自体のバイブレーションです。

Q：「スピリット、光そして火の子供達よ」とあなたが言う時、そのような精妙なステートの輝きが表現されることが信じられません。

K：しかし、この輝き、光は全てに、全ての人の内側にあるのです、今でもそれは全ての人の内側にあります。そして実際全ての物のなかに。人間のみならず、全ての物のなかに。なぜなら、全ての物、全ての人間はLifeの波動のなかで泳いでいるからです。例えば、今この部屋のなかでも私たちはLifeのこれらの波動のなかで泳いでいるのです。それはあまりに遠くにあるのでアプローチ不可能な何かではありません。それにアプローチ出来ない理由は、人間としての私たちが無知のステートにいる間は、私たちがそれらの精妙な波動のなかで浮くにはあまりにも重すぎるのです。精妙なという言葉は適切なリアリティーを与えていません。

Q：私は何かを伝えようとするのですが、自分が言いたいことを言葉で表現することがとても困難に感じられます。なぜなら、私たちが光として来て、そしてどんどん重くなり、自分たちの学びのために大部分は苦しみを通じて体験を重ねています。実際に何が起きているかというと私たちは脱ぎ捨て…

K：それはあなた自身ではありません、これ全てを体験しているのはあなたの真のセルフです。

Page4

Q：私たちはそれら物質の重い波動を脱ぎ捨てつつあります、そして最終的には前と同じように光になるのです。

K：違います。私たちは光にはなりません、私たちは光なのです。私たちが現わしているのはその影です。なぜならそれは創造されたものではないからです。あなたはその影を自動的に現わしているのです。

Q：私たちは実際何百万年もの間、体験をして再びそれを現わすことができるようにと生きているのですが、しかしそれらは何も意味していません。なぜなら今振り返ってみても、成長過程における経験、そして人生における今のこの瞬間においても、それらは何も意味しません。

K：違います、それらはちゃんと意味があります。あなたには認識されていませんが。なぜなら、何であれあなたが表現していることは全ての過去の総計だからです。

Q：はい、しかし新しいレベルの気づきという経験に関しては、それらは私達に印象をもたらしていません。

K：なぜそれらが印象をもたらす必要があるのですか？あなたが自己実現に到達すると、つまりあなたが内側に異なった色を帯びるようになると、そのときあなたは「可能となる」のです、過去に生きた全ての体験を時間の意味のなかで見ることができるのです。なぜ「生きた」と言うのでしょうか？なぜなら、永遠のアトムが同化され、魂のセルフエピグノシスとしてのスパーク全体に色を与えるからです。そして様々なパーソナリティーを生きた魂のセルフエピグノシスはそれら現在のパーソナリティーの全ての潜在意識に記録された詳細を全て見ることが可能となるのです。

Q：しかし、そのステートではいずれにしても全てを見ることができます。

K：勿論です。それゆえに、そのステートに到達したパーソナリティーで、転生のサイクルに留まるパーソナリティーは、人々の現れがどのレベルであろうとも人々を助けることができるのです。つまり、そのパーソナリティーは人々の潜在意識のなかに入り、それぞれの人にとって実際に何が必要なのかを見ることができるのです。

Q：それでは、魂のセルフエピグノシスがあり、小さなスパークが永遠のアトムとして入るのですね。

K：それは永遠のアトムを活性化します；スパークが永遠のアトムではありません。

Q：それではこの永遠のアトムが必要な色を得るのを待っている間、残りの魂は何をするのでしょうか？

K：それに対する答えはとても簡単です。なぜなら、それらは時間といういかなる意味をも経験しないからです。それは時間というものではありません。自己実現した現在のパーソナリティーにとっても同じです。

*現在のパーソナリティーが4つのサイクルをマスターして自己実現すると、5番目は自動的に与えられます。つまり、そのパーソナリティーは人間のイデア・フォームを使い始めるということです。転生のサイクルに留まるために波動を下げる迄に、この状態はどれぐらい続くのでしょうか？Lifeの瞬間であり、時間はありません。それは永遠の今であり、過去・現在・未来は一瞬の内にあります。それが永遠の今なのです。*

　いずれにしても、これは言葉あるいは意味では説明不可能なことです。そして残念ながら、今日科学者のなかには「創造界は偶然であり進化も偶然である。プログラムされたものは何もない、全ては偶然の出来事である」と主張する人もいます。

Page5

Q：エーテルとは何ですか？

K：エーテルとはエネルギーです。4つのエレメント以外に､他の３つがあります。それらは肉体でさえも使用しています。例えば心臓が使用している電気のように。そうです、磁気もまた電気の結果です。将来、人間はLifeから与えられるそれら全ての手段を使用するために何かを達成して、生活をより快適なものにすることができるようになるでしょう。

　誰でもが諸体のなかに電気を持っています。あなたの動きの結果として、もしあなたが何かに触れ、そして何かがアースされれば、電気はあなたを通じて流れアースされるでしょう。このことは車から降りて、車をロックするときに起きています。勿論、絶縁する靴を履かねばなりません。もしあなたがアースされていれば、あなたはそれを感じないでしょう。しかし、勿論この電気は他人のために使うこともできます。それはエネルギーであり、それに向き合いましょう。電気はエネルギーなのです。

　人間において心臓を鼓動させている電気に影響を与えているのは電流量です。ですから死という現象があるのです、電圧それ自体ではなく。

　もしあなたが誰かに対して長時間ワークしていると、身体のなかに非常に高い電圧の静電気が集中します；電圧は時には6万ボルト、それ以上にもなります。人間はこの電圧に対してどのように生存するのでしょうか？なぜなら、心臓を鼓動させ、また死の現象をもたらしている電気に影響を与えているのは電流量であり、電圧ではありません。もしあなたが電流量のない千ボルトの電線に触れても何も生じません…勿論ショックは受けますが。

　そのように人間は過去において創造エーテルを使用して、他人に雷電を送ったのです。

Q：クローニングについて、科学者は何の害もないと言います。なぜなら、間違っているのはクローニングの発見ではなく、その発見を使用して搾取することだからです。

K：勿論そうです。何であれ発見は善にも悪にも使用することができます、二元性の世界だからです。この発見とは体験のためです。しかし、私たちはこれらの発見にたいして非常に注意深くあるべきです。

　パーソナリティーが現象として、その発見によって干渉された身体を使うのは偶然ではありません。そのような身体を使用するパーソナリティーを選択するのは私たちではありません。私たちはパーソナリティーを創造しません。身体でさえ、それを生み出すのは私たちではありません。何が起きているかというと（原子のなかでさえ）、精子が卵子に与える構造があり、クローニングとは一体何でしょうか？あなたは細胞を手に入れ、それを卵に使います。その精子を得るのではなく、あなたはその精子を再び使用するようなものです。

Q：しかしそれらにおける危険性とは、様々なことを目的として、あるレベルの知性を創造するために人間が操作できるということです。

K：人間は何であれ彼らに価するものを受け取ることでしょう。何であれあなたに価するものに応じて、あなたは物事を生じさせますが、しかしそのパーソナリティー（＊クローン人間の）を「生み出す」のはあなたではありません。あなたのイリュージョンに応じて、あなたは結果を得ます。あなたはそれらのパーソナリティーたちがどこから来るのか知りません。現れの世界のどの低いレベルから来るのか知りません。なぜなら、レッスンで述べたように49の様々な現れのレベルがあるからです。そしてそれらのレベルの多くは煉獄にあるのです。

Q：しかし彼らはいずれにしてもいつかは転生してくるのです。

K：勿論彼らは転生してきます。彼らはそれらのイリュージョンを抱いている人間たちに似たような体験を与えるのです。もし肉体がいかにして築かれるかを見るなら、確かにその身体はそのようなパーソナリティーが使用する上で理想的なものでしょう。何であれ達成されること、それは法則によって許されているということを意味します。

Q：それでは、私たちは生じることに価するということですか？

Page6

K：勿論です。何であれ私たちがファンタジー、フィクションの表現として見るもの、それは達成されることができ、あるいは将来達成されるでしょう…おそらく詳細ではなくても全体的な構造において。なぜならそれは創造界においてすでに無数回も達成されているからです。今日ではただの夢にすぎなくても、全ての体験、科学はそれらを実現させることができるでしょう。

Q：もし将来何かが達成されるとしたら、今それに対して戦うポイントとは何であるか考えることがあります。将来私たちが想像する何かがいつか実現するでしょうと言いましたが、私たちの理解によればそれは良いことではないかもしれません。

K：いいですか、何であれ達成することができるのです、例え現象的にはそれが良いことではなくても、最終的にはそれは良いことなのです。なぜなら、それらの体験を必要とする全ての人間たちに体験を与えるからです。

この地球上で生じている最悪のことでも、全ては最終的には良いことなのです。

Q：しかし、あなたはそれを人々の恩恵へとつなげようとしますが、そのようにするポイントは何なのですか？

K：苦しみを与える体験や経験を避けるのを助けるためにです。なぜ体験を避けようとしようとしないのですか？

Q:はい、しかしほとんどの場合、私たちはそれらの体験を避けません。

K：もし私たちが成功しないなら、それはそれらを避ける他の方法がないということで；私たちはそれを通過しなければならなかったのです。

Q：時には、私たちが何をしようとも、最悪なことが起きるでしょう。

K：違います。いいですか、

私たちは何であれ苦しみ、痛みを生み出すものを避けようとすべきです；常にそれを避けようと試みるべきです。もし起きるなら、それは私たちがそれを経験しなければならなかったことを意味します。法則はそれを避けることを許さなかったのです。

**勿論、私たちは常に否定的なことは避けようと努力すべきです。**

**何であれ起きることは起きるのだと考え、努力もせずにそれに委ねてはいけません。**

**とんでもないことです。肯定的なことのために戦うべきです。**

**そして戦うというとき、それは暴力に訴えるという意味ではありません。そうではなく否定的なものの反対に立って、それを止めて、否定的なものからエネルギーを取り去るのです。**

EREVNA PYR N0.12 15/10/03